

I Sant'Innocenti（見捨てられた児童の会）の活動

マルコ・ロマーニ（ローマ支部責任者）

オリーブジャパンはイタリアの I Sant'Innocenti (I.S.I) を中心にいくつかの国にあるカウンターパートと共に、中米の貧困に苦しむ若者への教育支援を行っています。2018年1月6日に名古屋で行われた I.S.I のローマ支部の責任者、マルコ・ロマーニの講演記録です。



（ISI はジョヴァンニ・リヴァ氏が教えた「兄弟愛に基づく平和」の理念の下、主に中米の子どもたちのための働きである。ISI は 2001 年のエルサルバドル大地震の直後から、子どもたちのためのプロジェクトを続けている。FUNDIPRO は、子どもたちの衛生教育や必需品の配布も行っている。また、貧しい人々のための法律相談も行い、活動は多岐にわたっている。） 前号より

中南米の若者を対象としたイタリア留学奨学金プロジェクトではリゴベルトがヴェネツィア大学総合政策学部を卒業しました。エレナはホンジュラスから1ヶ月前にイタリアに来たばかりで、ヴェネツィア大学人類学部で学びます。

イタリアで 2013 年に地震が起き、たくさんの建物が崩れました。この学校の外壁は形を保っていますが、教室内が崩壊してしまい、しばらく中に入れませんでした。子どもたちがすぐに授業を受けられるように、ISI は被災の後片付けを行いました。この学校は崩壊したため、ISI はテントで教室を作り、2ヶ月間子どもたちはそこで勉強しました。

レッジョ・エミリア市（北イタリア）でのプロジェクトです。皆さん、ニュースで知っていると思いますが、ヨーロッパに多くの難民や移民が押し寄せてきています。彼らはその子どもたちです。スラム街とまではいきませんが、貧しい生活には違いありません。ここはあなたの家だよと安心感が生まれるように、このプロジェクトを行っています。一緒に遊んだり、博物館に行ったりしています。このプロジェクトの中心スタッフは幼稚園、小学校、中学校、高等学校の先生たちです。スタッフはこのプロジェクトのために素晴らしいカレンダーを作りました。





今回〔2018年〕の講演のテーマは「現地の人々の友となって」です。彼女はアレクサンドラです（写真左）。この子は仕事のためにロサンゼルスに移動したのですが、ロサンゼルスに着いてすぐにホームレスセンターに手伝いに行きました。自分が置かれた環境で人々の役に立ちたいからです。ここで彼らは食品を集めてホームレスの方々に配っています。このあり方は貧しい国だけでなく、どこにでも必要です。目的を持って共に働く人は良い友情を建設します。意味深い活動のために一緒に働いているからです。アレクサンドラはそのセンターですぐに友人ができました。

突然ですが、これはトナーレスターテのポスターです（写真右下）。ジョヴァンニ先生は非営利団体の活動だけではなく、文化活動にも非常に力を入れていたことを紹介したいです。私たちは食べ物が必要ですが、同時に精神的な食べ物と知識も必要です。よって先生はトナーレスターテというイベントを始めました。これは国際文化平和フォーラムです。文化とは方向性のある人間を育てることです。文化を持つ人はどこに向かっているか分かるので、迷子になりません。これもある意味で慈悲の業です。毎年8月に行われる10日間の国際ホリデーの間に、トナーレスターテが開催されます。



様々な国から先ほどの活動に携わっている人たちがイタリアに集まり、毎年「あなたがいるから私は喜ばしい」という優しい雰囲気の中で、パネリストの講話聴講、ワークショップ、食事やハイキング、コーラスなどをして一緒に過ごし、この優しい人間性を分かち合います。これは展示会です。各国の言語で展示内容を説明しています。この方（写真左上）は去年（2017年）トナーレスターテにいらっしゃったギリシア人で、海上保安庁の船長です。彼は海上に漂う難民の救助活動をしています。彼はアメリカ大統領選挙に出馬したサンダースの友人です。最後にこの集合写真をお見せしたのは、このような写真で話し始めたので、同じような写真で終わりたいからです。（了）



中南米における人間の尊厳と女性の立場 その3

ジョヴァンニ・リヴァ

戦争や内戦、開発教育の行われていない社会の中で弱い立場である女性は守られず搾取されてしまう。また南米において女性が働くことに家族が理解を示すことはいまだ難しい局面もある。(前号より)

中南米ではまだ 7 歳に満たない子どもたちでも畑仕事や色々な小さな仕事、例えば道で靴磨きをしたり物を売ったり車を磨いたりしています。7〜8 歳でこのような仕事をしている幼い子どもには自分を守ることなどできません。つまり簡単に大人に利用されているのです。13〜14 歳になると自立して自分の仕事を持つ子どもが多くなります。例えば田舎から離れて都会に出て金持ちの家でお手伝いの仕事をする子どもが多くなります。しかしお手伝いと言えるか奴隷と言えるか。皆さんは南米の社会制度をご存知だと思いますが、とても金持ちな人ととても貧乏な人がいます。金持ちは貧しい人を奴隷のように扱っています。もちろん暴力的に扱われている子どもも少なくありません。つまりこの子どもたちは暴力的な環境の中で育っているわけです。暴力は自然が決めることではなく人間が生み出した状況です。自然の中にはそのような暴力がありません。小さな子どもが自分の家族を養うために道で働くことは暴力です。ある子どもは預かった品物を最後の最後まで売らなければ家に帰ることができません。何故なら全部売らなければ苛められるからです。これはまだ良い場合です。悪い場合であれば子どもは両親に苛められるために家出をしてしまいます。ある子どもたちは物を運ぶ仕事をしていますが、幼い上に満足な食事をしていないため身体を壊します。たった 5 歳で既に障がい者になってしまった子どもはたくさんいます。そうすると女の子は娼婦に、男の子は泥棒になってしまう場合があります。ある男の子は私に自分の泥棒技術を見せてくれたのですが、とても上手でした、まるで泥棒学校を卒業したかのような巧さです。このような弱い立場にある子どもたちは大人たちに或る約束をさせられます。例えば「或る街に出なさい。そこで仕事があるから。」と大人は子どもに切符を買うためのお金を貸します。しかしそれはインチキで、その街には仕事などなく子どもは結局借りた切符代を返さなくてはならなくなります。ですから子どもはその借金を返済するためにまた大人に利用されてしまうというわけです。このような問題が多々あります。

もう一つ暴力の種類があります。それは直ぐに目立たない暴力です。例えば皆さんご存知のように、開発国では粉ミルクの販売は法律的に禁じられています。何故なら医者は母親に母乳で赤ちゃんを育てることを教えないからです。母乳で育てることはただ肉体的なことだけではなく母親と赤ちゃんの関係をも促すでしょう。ところが或る多国籍企業はそのような国で禁じられているにもかかわらず簡単に粉ミルクを販売しています。許可を与えられているからです。では何故粉ミルクはいけないのでしょうか。母親は病院で子どもを産みますが、時間がかかって面倒だという理由で母親に母乳で育てる方法が教えられていないのです。すぐ粉ミルクが渡されます。当然赤ちゃんは直ぐに粉ミルクに慣れてしまい母乳を受け付けなくなります。従って母親は粉ミルクを買わなければならなくなります。南米では粉ミルクはとんでもなく高価な物です。母親は少ないサラリーの半分以上を粉ミルクに費やさなくてはなりません。そこで母親は何をするでしょう。粉ミルクは高いから水をたくさん入れて薄めます。当然子どもの発育不良に繋がります。その上ある地域の水はとても汚れているのでその水が原因で子どもは病気になります。これは暴力だと思いませんか。システムの中に潜んでいる暴力です。

もう少し暴力について例を挙げてみますが、人口抑制というものがあります。二人目の子を出産した女性は、その際にもう子どもを産めないよう本人が知らない間に手術されてしまうのです。これも暴力です。人口抑制するために女性はこのような扱われているのです。少なくとも本人の意見を聞くべきだと私は思うのですが。もう一つの例ですが、南米ではまだ女性が家を離れて仕事を持つということに理解がありません。世間に非難されたり、自分の立場を守るために自分で頑張らなくてはならないのです。口で言うのは簡単ですが、英雄的な態度を取ることは非常に難しいと思います。彼女たちは軽蔑されています。仕事を持って向上したい女性は家庭を見捨てたと思われるからです。彼女たちを雇った人でさえも軽蔑視しています。(次号に続く)

1994 年 11 月 26 日、全国 NGO の集い分科会にて、ジョヴァンニ・リヴァ師が講演した内容をお届けします。リヴァ師は「友情こそが真の平和を作る」という理念のもと、祈り、教育、働きについて絶えず若者に教えました。オリーブジャパンと各国のカウンターパートの活動はその教えを礎としています。

エルサルバドルの子どもたちのための

OLIVE JAPAN チャリティーショップ

7 | 20.sat 11:00-17:00
21.sun 10:00-15:00

カザン珈琲本店横(旧タツミ)

愛知県名古屋市昭和区台町2丁目19



TEL: 080-4306-1057 (鈴木) HP: <http://olivejapan.sakura.ne.jp/>
主催: オリーブジャパン国際開発協力協会

OLIVE JAPAN チャリティーショップ 7/20 (土)・21 (日)

—物品募集中—

チャリティーショップの収益金はすべて、イタリアの I.S.I を通して、中米の貧困に苦しむ子どもと若者の教育支援事業に充てられます。
ご家庭にある、日用品、衣類、靴、アクセサリ、バッグ、雑貨などのご提供をよろしくお願い致します。
皆さまのご協力をお待ちしております。

連絡先 080-4306-1057 (鈴木)

会員募集

オリーブジャパンの活動に賛同していただける
会員の方を随時募集しています

- ・賛助会員 (1ヶ月1口 10,000円)
- ・正会員 (1ヶ月1口 5,000円)
- ・協力会員 (1ヶ月1口 2,000円)
- ・参加会員 (1ヶ月1口 1,000円)
- ・同調会員 (1ヶ月1口 500円)

振替口座番号

00890-1-24582

会員の皆様には、会報「オリーブプレス」と
講演会、バザー等のご案内を
優先的にさせていただきます。

郵便振込用紙に必要事項と会員の種類、納入方法(月払い/年一括)をご記入の上、会費を納入ください。

ONE WAY 国際平和文化協会 第50回文化講演会



ONEWAY 文化講演会

7/7 (日) ウィルあいち
HOMBRES NUEVOS

新しい人間

私が大飯原発を止めた理由

講師: 樋口英明 元裁判官